

下刈りの省力化マットの効果調査

平成 15 年度（国：現地適応化試験）

野々田 稔郎

皆伐地植栽に伴う下刈りは、森林造成上で多大な労力を要する作業であり、その省力化が望まれている。このことから、下刈りの省力化を目的とした防草マットを敷設し皆伐地に植栽を行った。この省力化マットは、生分解性プラスチックを用いた網袋で、袋内におがくずを詰めてマット状にして使用するものであり、当県が特許取得（登録第 3355072 号）した技術である。

試験地を三重県一志郡美杉村の皆伐地に設け、コナラ苗を 50 本植栽した（2003 年 10 月：写真-1 のとおり）。この内、25 本は、下刈りの省力化を目的とした省力化マットを敷き、併せて獣害ネットを設置した。対照区 25 本は、省力化マットを敷かずに、獣害ネットのみを設置した。2004 年 3 月時点ではこれら植栽木はほぼ活着した。今後この調査地を対象として継続調査を行い、試験区と対照区の比較から、省力化マットの効果をまとめ、現地適応のための技術普及を行う予定である。



(a) 敷設地全景

(b) 敷設状況

写真-1. 調査敷設地の状況